

# 入試分析 国語

・出題順や点数配点は24年度と変わりなし。全体として大幅易化

問一 漢字の読みと書き・俳句の鑑賞 配点20点 易しい

- ・(ア)のd「諮る(はかる)」の読み以外は、簡単なものばかりだった。
- ・(ウ)の俳句も、消去法を使って選択肢の中から読み取れない部分を見つければ解きやすい。

問二 物語文 配点24点 易しい

- ・水墨画教室で初めて指導することになった主人公や生徒の気持ちを読み取る素直な文章で、一時期よく出題された古い時代背景からくる読みづらさはなかった。
- ・傍線部分の近くに答えを選ぶための根拠があり、選択肢も消去法を使って絞りやすい。(ウ)が1か4で迷ってやや難しい。

問三 論説文 配点30点 文章の後半が難しい

- ・(ア)の接続詞は、AかBのどちらか一つが分かるだけで答えが決められる。
- ・(イ)の文法問題は、助動詞「られる」の見分けで王道。これで助動詞4回、助詞7回、副詞1回の出題。
- ・(ウ)の漢字は、昨年と同じく対義語。毎年変化していた出題傾向が初めて固定された。
- ・自己デザインの長所と短所を対比させながら、〈私〉の存在について結論を述べる文章。後半の展開についていけないと(ク)(ケ)は難しい。その他の問題は傍線部分の近くで根拠を見つけることができる。

問四 古文 配点16点 易しい

- ・「太平記」からの出題。よく問われていた基本的語句や敬語や反語表現に関する問題は昨年に続いて今年もなかった。ひたすら登場人物の行動とその理由を理解する読解力が問われているので、論説文の読み方や消去法に慣れていると簡単に解くことができる。
- ・文法の「申し留めぬれば」(完了の助動詞)と語句の「出仕をしける」を理解できるようにしたい。

問五 資料の読み取りと記述 配点10点 易しい

- ・資料の文字数が増えているが、論旨は捉えやすい。(ア)は選択肢を2か3に絞り、後半のⅡに当てはまるもので答えを出せるようになっている。グラフの読み取りではなく論説文の読解と同じであった。
- ・(イ)の記述は、字数が5字増えて30字~40字となったが、指定された語句が含まれる部分を見つけて書けばよく、自分の言葉で要約する必要もないため取り組みやすい。

## 入試に向けての学習のポイント・アドバイス

- ①読解力をつける＝知らない語句の意味を調べて覚える。古文の基本単語と文法を覚える。
- ②物語文は登場人物と感情を追う＝主語は誰か。感情が分かる語句をチェックする。
- ③解き方を身に付ける＝対比・言い換え・筆者の主張を追う。選択肢は本文と見比べて考える。